

## 今日のトピック 豪ドル相場は底堅い展開へ（2019年1月） 順調な景気、中国経済の持ち直し等が豪ドルの支援材料

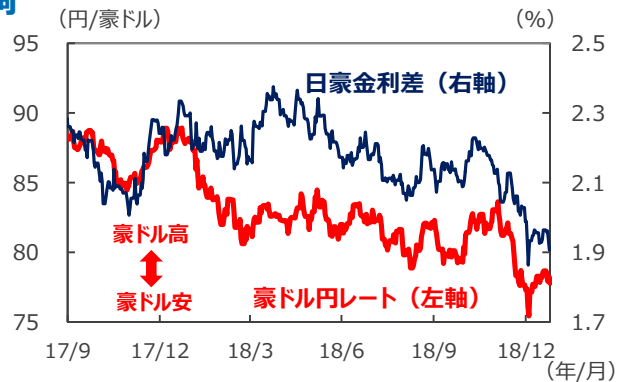
### ポイント1 豪ドルは下降後、やや戻り歩調 1豪ドル=78円近傍で推移

- 豪ドルの対円相場は、昨年末から今年の年初にかけて急落しました。1月3日に1豪ドル=75.43円を付けた後は、78円近傍まで戻しています。

### ポイント2 豪州景気は緩やかに拡大 2020年前半に利上げの見通し

- 2018年の豪州の実質GDP成長率は、前年比+3.0%となったようです。政府投資（インフラ投資）に支えられて、+2.7%前後と推計される潜在成長率を上回る成長を達成したと見られます。
- 2019年は、潜在成長率並みの前年比+2.6%成長が見込まれます。インフラ投資に加え、民間部門の設備投資の持ち直しが見込まれること、雇用の拡大から個人消費が底堅く推移すると予想されること等によるものです。
- インフレ率は、失業率の低下を通じた賃金増を背景に、2019年から2020年にかけて緩やかなペースで上昇し、豪州準備銀行（RBA）の目標の中心値である+2.5%に接近すると予想されます。
- RBAの金融政策は、当面、中立を維持する見通しですが、インフレ率の緩やかな加速を受け、2020年前半の利上げを予想します。

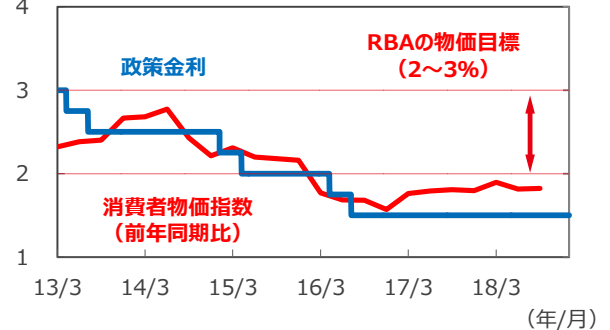
【豪ドル円レートと豪日金利差】



(注) データは2017年9月30日～2019年1月24日。日豪金利差は3年国債利回りの差。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年7-9月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2019年1月24日。

(出所) Datastream, Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 豪ドルの対円相場は底堅い展開へ

- 豪州経済が底堅く推移すると予想されること、日銀の緩和姿勢維持に対しRBAは当面、中立姿勢であること、中国政府による金融財政両面の景気浮揚策の効果で、減速傾向にある中国経済も2019年後半には緩やかに持ち直す見込みであること等から、豪ドルの対円相場は底堅く推移する見通しです。米中貿易摩擦が豪ドルに及ぼす影響は限定的と考えますが、不確定要因として警戒を続ける必要はあるでしょう。

**ここもチェック!** 2019年 1月22日 減速傾向が鮮明となった中国経済（2019年1月）  
2018年12月 5日 市場予想を下回った7-9月期の豪州GDP成長率（2018年12月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。